

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人有心会 グループホーム南風
(ユニット名)	ユニット A
所在地 (県・市町村名)	長崎県 南島原市
記入者名 (管理者)	池田 南
記入日	平成 19年 12月 10日

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「入居者の個性を尊重し、QOLを高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂く」ことを理念に掲げ、地域の中でその人らしく暮らし続けて頂けるよう支援している。	町内清掃、近所の保育園、中学校の行事などへの参加は行っているが、まだ、地域の方々との積極的な交流とまでは言いがたいと思う。地域の中にとけ込み対話などから、この地域に則した理念を掲げるよう努力したい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々のミーティング等で理念を話し合い共有するよう努め、理念の実践に向けて日々努力している。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	月に1回広報誌を発行し、その中に必ず理念を掲載し家族の方々に理解してもらえよう努めている。また、ホーム内にいつでも見れるよう事務所、広報誌を貼り出し地域の方々へも理解していただけるよう努めている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方が通られた時は、必ずこちらから声を掛けるよう心がけている。また、近くの保育園、中学校などとは日頃から付き合いを深めお互いに気軽に声を掛け合っている。	保育園とは日頃から行事(夏祭り、運動会など)のたびに入居者さん方呼んでいただき、交流を深めている。今後は、地域の方々にもっと気軽に立ち寄っていただけるよう全職員で考えてゆきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、市内清掃や祭事などの地域活動に参加している。ホームの敬老会には、ご家族、地域の民生委員の方に参加していただき地元の方々との交流するよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>利用者の方々の身内、友人や系列のデイサービスの方々と交流は積極的に行っているが、取り組みと言えるものは行っていない。</p>		<p>今後、地域のために何ができるか話し合い、検討していきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施することにより、日頃見過ごしがちになる点などを改めて考え、話し合うことにより、運営者、管理者、職員の共通の認識とし、自ら改善するよい機会としている。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、地域の民生委員、市の職員、家族の代表に参加していただき、2ヶ月に1回事業所側との意見の交換を行っている。この中では、事業所側からの報告はもとより、各委員から評価について積極的な質問や話し合いを行い、サービスの向上に努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>南島原市役所有家支所市民課の担当者や島原地域広域市町村圏組合介護保険課の職員と連携を取り、サービスの質の向上を目指し、話し合い及び指導していただいている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会、勉強会の参加により学ぶ機会を持っている。入居者の中にもおられ、活用している。</p>		<p>今後、増えていくことが考えられるため、事業所側としても円滑に実施できるよう理解を深め、体制を整えたい。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や職員は、虐待防止のために研修会、勉強会に参加している。職員すべてがお互いに利用者に対し虐待が行われないよう常に注意を払い虐待防止に努めている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時は書面による説明を行い、疑問点や不安に思うことなどを尋ね、十分理解・納得されるまで説明を行っている。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの不満、苦情を随時受け止め、ミーティングで話し合い解決に努力している。また、ご意見箱を設置し書面でも行えるよう配慮している。さらに苦情処理窓口、第三者委員会を設置し、また苦情のその他の窓口として、南島原市役所、介護保険課、社会福祉協議会などをあてている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回広報誌を発行し、その中にその月1ヶ月の入居者の状況を記し、お渡ししている。また、利用料はほとんどのご家族の方にお持ちいただくようお願いし、金銭管理や職員異動の報告を合わせて行っている。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月1回の広報誌の中でご意見、ご要望など気軽に申しつけていただけるよう呼びかけを行っている。また、ご意見箱をや苦情処理窓口、第三者委員会を設置し、苦情のその他の窓口として、南島原市役所、介護保険課、社会福祉協議会などをあて、外部者に表せる機会を設け、運営に反映させるようにしている。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回、定期的に会議を開き、意見や提案を聞く機会を設けている。また、1日に3回のミーティング時にも随時運営に関する職員の意見、提案を聞く機会を設け、運営に反映させている。		これからも1日に3回のミーティング、月に1回の会議を続け、運営に反映させたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況、家族の要望などに柔軟に対応する為、人員の確保や時間帯の見直し、さらには勤務交代などの措置を取り、勤務の調整を随時行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者が馴染みの職員より支援が受けられるよう、異動や離職を最小限に抑えるよう職員との話し合いを行っている。また、代わる場合は、利用者のダメージが少なくすむような対応、言葉掛けを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資格取得の奨励や研修などを計画的に行っている。各種講演会や研修には、勤務内もしくは有給休暇ををあて研修を受ける機会の確保に努めている。また、経験を多く積んだ職員が後輩の育成に努めている。	職員の質を高め、よりよい介護を実践していくために今後も研修に多く参加したい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる取り組みは行っているが、現在は同業者間の交流は管理者、職員間での単独の交流のみに限られている。	来年度から南島原地区ケア研究会に参加することが決まっておりネットワークづくりや勉強会、相互訪問等を行う予定にしている。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人全体で親睦会を作り飲食会、送別会など年に数回行い、職員間の悩みの解消、ストレス軽減の場として設けている。また、ホーム内でも普段から悩みなど打ち明けやすい環境づくりに心がけ、飲食会、スポーツ大会など開催しストレスが軽減できるような環境づくりに取り組んでいる。	
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、研修会などへの参加状況や勤務状況の把握に努め、向上心を持って働けるよう努めている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望時、本人に個別に聴く機会を設け、分からないことや不安に思っていることなどを納得されるまで十分説明し、不安の解消に努めている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所希望時、ご家族に個別に困っていること、不安に思っていることなどさらに要望などを聴く機会を設けている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、必要としている支援を見極めるよう本人と家族に随時面談を行い、ケアプランを作成し介護に活かしている。また、本人、家族の要請を聞き、他のサービス利用も含めた対応を支援している。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ほとんどの利用者が数度の面談ののち納得した上でサービスを開始して頂けるよう努めている。また、本人、家族に事前にホーム内を見学していただくよう努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	昔の例え話や旬の食材の美味しい食べ方、草木の名前や育て方など生活のあらゆる場面において教えていただいたり、孫の結婚や冠婚葬祭など一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にしている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、本人の体調や精神面の変化をお話し、家族の方と協力して本人を支えていく関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所されている本人と家族の方々との個々の関係を把握し、以前にも増して、より良い関係が築けるよう支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所後もご親戚はもとより、その方の地域の方々や友人が気軽に訪問されている。また、病院や美容室などその方の通いなれた所へお連れしている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の一人ひとりの関係を把握し、孤立されないようグループで物事を進めてもらい、関わり合い支え合えるよう努めている。摩擦が生じた時は、職員が仲裁に入り、常により良い関係が保てるよう努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後も本人、ご家族との関係を断ち切ることなく、面会や相談、助言等を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中から一人一人の思いや暮らし方の希望、意向を聞き利用者の求めに応ずるよう努めている。また、困難な場合は、本人本位に検討している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を把握するため、入所以前から現在に至るまで本人または家族から聞き取りを行い、これまでの生活の様子や幼少期から入所前までどのような生活をしておられたか、これまでのサービス利用の経過などの把握に努めている。		バックグラウンドファイルを備え付け、出生地から現在に至るまでの生活の様子やエピソードなど個人別に細やかに聞き取りを行っている。また、入所前の1日の生活の様子も同じく聞き取りを行い記録している。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの個人ファイルがあり、1日の過ごし方、心身状態など24時間の記録を取っている。これを現状に即し総合的に把握するための材料の1つとしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回の職員会議、もしくはミーティングの中でアセスメントを行い介護計画を検討している。本人、家族とは、意見や要望などを話し合い、また医師や理学療法士などの専門職からのアドバイスなどを総合し、介護計画を作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、期間内に必ず見直しを行い、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、医師、理学療法士などと話し合い、現状に即した介護計画を作成している。		介護計画は、期間前約1ヶ月ほど前に作成し、新しい介護計画開始時まで家族に説明し、同意を得た後、施行するようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を個別ケア一覧に記録を行い、さらに特別の変化や病院受診などの際は、日常記録に記帳している。また、1日に3回のミーティングの中で微かな変化であっても職員間で話し合い、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業母体である病院と連携を取り、本人や家族の要望に答えている。またホーム内には、看護師を始め多くの職員が働いておりその時々々の要望に柔軟な対応を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の学生(有家中学校、西有家中学校、湘南高校)の受け入れを始め地域の保育園などお互いに協力をし支援している。また、消防訓練や文化祭への参加など各機関と協力し、支援を行っている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人または家族から要請があった場合は、他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援を行っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護については、南島原市社会福祉協議会有家支所にお願ひし、協働している。今のところ地域包括支援センターとの協働は行っていない。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からのかかりつけの医師と連携を取り、本人及び家族の希望を大切に適切な医療を受けられるよう支援している。		池田循環器科内科と医療連携体制を取り、急変時、緊急時の対応を24時間体制で行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医等認知症に詳しい医師に定期的に受診し、その中で利用者の状況をお話し、職員が相談しながら治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	池田循環器科内科と医療連携体制を取っており、看護師と相談をしながら日常の健康管理や急変時の対応を行っている。		池田循環器科内科の看護職員と病変時はもとより、定期的に受診を行い気軽に相談しながら支援を行っている。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、家族と協力し不安なく過ごして頂けるよう面会を行っている。また早期退院できるよう情報交換や相談をしながら病院関係者と連携を取っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	施設として「認知症対応型共同生活介護事業に於ける重度化した場合の指針」を定め、入所時、家族に説明を行い意向を聞いている。これまでは、施設で看取り介護を行ったことはないが、当施設で重度化した場合や終末期を迎えた場合、本人や家族と医師、看護師、介護職員が連携し行う体制を取っている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人が重度化した場合や終末期を迎えた場合は、かかりつけ医と連携を取り、チームとして支援する体制を取っている。また、今後の変化に備え、医療機関や家族、管理者、計画作成担当者、看護職員、介護職員が協働して行う体制を取っている。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人が別の居所へ移り住む際は、家族及び本人に関わるケア関係者間で話し合いや情報交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの人間性を認め尊敬や敬意を持って接している。また、プライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等は行っていない。	全ての職員から、個人情報保護に関する誓約書に署名、捺印をもらい、個人情報保護の徹底に努めている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	本人が思いや希望を表せるように常に声かけや話し合いをするよう努め、その方の意思を尊重し暮せるよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし趣味や楽しみなどはもとより、その方なりの自由な過ごし方を叶えるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご自宅から以前からのお洒落着をお持ちいただき、外出場所にあわせお洒落されている。定期的に理容院から来てもらいカットしてもらっている。パーマや散髪の希望があればその都度本人の望む店にお連れしている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの嗜好の聞き取りを行い、嫌いなものは他のものに変えるなどしている。また、本人の力に合わせ刻み食の大きさや軟らかい物に変えること、ミキサー食などきめ細やかな対応を行っている。職員と入居者は一緒に食事、後片付けを行い食事が楽しみになるような支援をしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一人ひとりの嗜好の聞き取りを行い、好きなものをできるだけ自由に楽しんでいただけるよう努めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄は、おむつパット使用の方には排泄チェック表に記録を行い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレまたはポータブルトイレ介助を行っている。排泄の失敗がありそうな方へは、時間を見て声かけを行い気持ち良く排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の希望に応じて週2～3回の入浴支援を行っている。入浴時間も本人の希望に合わせてゆっくり行うよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居者のその時の体調や心身状況に合わせて、こたつで横になったり、個室で休んだり自由に休息を取っていただいている。また、安眠していただけるよう個別に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その方なりの力を発揮できるような場を設けるよう支援している。役割を持って張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。		日常生活では、ブランターの水まき・茶碗拭き、洗濯物たたみ、カルタ取りなどをされ、役割をもって楽しまれている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名の方は、小額の自分のお金を管理され、安心されている。そのお金で買いたいものの希望があれば一緒に買い物を行っている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別に要請があった場合は、出来るだけ希望に沿うようにこころがけている。また、リハビリや戸外でのレクリエーション及び散歩も出来るだけ行うようにしている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月1回のペースで季節に応じての外出を実施している。その外出の際は、家族の方へも協力を願い一緒に出掛けることもある。		季節を感じられる所への外出の機会をもう少し増やして行きたい。また、家族の方へも協力していただけるようお願いしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者がいつでも利用できるよう公衆電話を設置している。また、手紙も多く利用されている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪しやすいよう職員へ”笑顔での挨拶”を徹底し、世間話しを取り入れるなどして雰囲気作りを行っている。		家族や来訪される方とのコミュニケーションを普段から取っており職員も会話のなかに交わるよう心がけている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームに独自の身体拘束マニュアルがあり、2～3ヶ月に1回程度、職員会議の場で話し合い身体拘束を行わないケアを実現している。また、医療法人有心会に身体拘束委員会を設け、1ヶ月に1回委員会を開催している。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、南風では、居室や日中玄関に鍵をかけることはない。		今後も鍵をかけないケアを継続していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	部屋は、トイレ付き個室であり、本人のプライバシーには、見守りを中心とした介助を行い、プライバシーを損なわないよう充分配慮をし常に職員が所在を把握し安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物など危険な物品については事情を説明し、ホームで預かり、また、裁縫など自分で行う入居者の方もいらっしゃる方で、その方の心身状況を把握し、安全が確認できる方には、裁縫道具を自分で管理していただいている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員は、研修会などに積極的に参加し、知識を深めている。転倒などの事故が発生した際には、必ず職員会議を開き、原因を追究し再発防止に努めている。		緊急時の対応、事故発生時の対応マニュアルを独自に作成している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防本部の行う救命講習会へも毎年参加し、緊急時の対応、事故発生時の対応マニュアルを備え、緊急事態に備えている。なお、応急手当、初期対応の訓練は、不定期で行っている。		応急手当、初期対応の訓練は、定期的に行うよう改善したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の際、日中、夜間を想定した避難訓練を消防署の指導のもと行っている。それ以外にも不定期に避難訓練を行っている。また、地域には、民家が少ないため、地域の人々の協力は得られにくい。地域住民やボランティア団体等により、協力が得られるような体制を確保している。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者一人一人に起こりうるリスクに対して職員は、把握しておりミーティングなどを通して常にリスクに対する対応策を考えている。また家族に対しては、面会時などに常に現在の状況を話し、リスクについて説明をしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルの確認を行い、報告を行っている。また、体温、血圧に少しでも異常が見られた場合、特に注意して再検を行っている。朝の申し送り、昼、夕のミーティング時に職員間の情報交換を行い、体調の変化や異変発見に努めている。		万が一、体調不良に気づいた際は、その日の責任者へ対応を仰ぐようになっている。また、池田循環器科内科と連携を取り対応している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は、薬の目的や副作用について学んでおり、解らないときは、個人別のファイルを設け、いつでも薬についての効能、用法、副作用についての管理表を見て学べるようになっている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事に関しては野菜中心の献立を立てており、また毎日定時に水分補給を行うようになっている。毎朝のラジオ体操、リハビリ、散歩、レクリエーションを通してできるだけ体を動かしていただけるよう心がけている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に合わせ全介助、一部介助、声かけ、見守りと個別に口腔ケアを実施している。夕食後と外出後は、口腔内の殺菌と風邪予防のためイソジン液を使用し、口腔ケアを実施している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの取れたメニューを提供し、随時メニューの見直しを行い栄養バランスと入居者の好みに合わせた献立を提供している。水分摂取については、毎食後はもちろん、10時、15時と定時にいきさらが必要な場合は、個別に対応している。		個人別ケア一覧表の中に毎食の一人ひとりの食事摂取量を主食全量を5、副食全量を5として食べられた量を記録し、食事摂取量を把握している。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	施設として感染予防マニュアルを作成し、予防や対応の取り決めがあり実行している。また、随時研修会などに参加し、知識を深め予防に努めている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	施設として衛生管理マニュアルを作成し、食中毒予防を実行している。また、食材は、当日分を各業者に毎日納入してもらい、新鮮で安全な食材使用に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設全体が明るく開放的な木造平屋造りになっており、玄関には植木を植え、車イスも出入りできるようスロープ状にしてある。建物の周辺はフェンスなどでなく、生け垣を使用し柔らかい雰囲気を出し親しみやすく安心して出入りできるようにしている。		家族や近隣の人たちから中の雰囲気が分かるよう垣根は腰の高さぐらいにし、親しみやすいよう工夫をしている。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物全体が木材を多く使用した和風造りで落ち着いた雰囲気があり、居間には掘りごたつや座布団があり、家庭的でくつろげるよう工夫してある。また、季節感を楽しんでいただくために、行事ごとの飾りつけなどを行い、居心地よく過ごせるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間と食堂がひと続きになっており、気のあった入居者さん同士、居間でテレビを観たり、ゲームをして楽しんだり、一人で掘りごたつで横になったりと思い思いに過ごして頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時、本人や家族に持ち込みの制限のないことをお話し、愛着のあるタンスを使用されたり、家族の写真を飾られたり、出窓には観葉植物を置かれたり、思い思いに居心地のよい空間へとされている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者のその日の健康状態や天候に応じて毎日温度調節を行い、換気も定期的に行っている。また、トイレの使用後流されない方の後始末など入居者一人ひとりの行動を把握し、適時掃除など行い対応している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の廊下には手すりがつけてあり、車椅子で入れる広いトイレにも2つの手すりをつけ身体機能に合わせて使用できるよう工夫されている。一人ひとりの身体状況にあわせ、床に畳を敷き休んでいただいたり、ポータブルトイレを使用したりと安全かつ自立した生活が送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の扉に大きく名前を貼ったり、職員がその都度、声かけや見守りまたは誘導を行い一人ひとりに合わせ自立して暮せるよう支援している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭には畑を作り作物を植え生育や収穫を楽しんでいる。また、ベランダでは、いろいろな花を作ったり干し柿を作るなど季節を楽しまれている。広い駐車場では、日光浴やレクリエーションを行っている。		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の個々の精神、身体的能力に合わせ、医療系のグループホームをして効果的な個人ケアを行っており、自己決定を尊重し自立支援に向けた取り組みを行っている。また個々の入居者に尊厳ある老後、そして入居者の個性を尊重し、QOL(生活の質)を高めることにより生き甲斐を持って明るい生活をして頂くことを理念とし、職員一同、理念の実践に最善を尽くしております。入居者すべての方に毎日、笑顔で過ごしていただけることのできるよう、日々皆で考え、試行錯誤しながら作り上げているグループホームです。